

平成29年度 第2回大東市産業振興市民会議（報告）

1. 日時・場所 平成29年7月26日（水）午後3時30分～5時30分
大東市役所 東別館2階会議室

2. 出欠

【出席】

会長	（株）山田製作所 代表取締役社長	山田 茂
副会長	NPO法人住まいみまもりたい 理事長	吉村 悦子
委員	大阪産業大学 教育研究推進センター長・デザイン工学部教授	濱崎 竜英
	大阪経済大学経営学部准教授	遠原 智文
	明星シンセティック（株） 代表取締役社長	上田 隆章
	新大阪食品産業（株） 代表取締役	北尻 正太
	大東商工会議所 常議員	伊泊 規子
	NPO法人大東夢づくりコミュニティ 代表理事	杉山 朋子
	小金屋食品株式会社 代表取締役	吉田 恵美子

市 政策推進部長 北本 賢一
事務局 産業振興課 森田次長・坂本上席主査・林

【欠席】

委員	大東市商業連合会 会長	角谷 昌寛
	近畿経済産業局 地域経済部 地域開発室長	田口 一江

3. 議案

(1) 本年度の施策への意見交換

事務局より資料を基に次の事項を説明。

①大東市産業振興基金について

- ・平成28年度のふるさと納税「産業の振興」へ頂いた寄付金9,770千円のうち、お礼の品代等諸経費を差し引き、2,876,473円を積み立てた。
- ・基金の使途についてご意見をいただきたい。

②大東市未来人材奨学金返還支援補助金について

- ・大東市内に在住し、かつ市内にある中小企業に正規雇用された方や、保育士等の免許を持ち、市内事業所に正規雇用された方に対し、返還している奨学金の2分の1を補助する。（半年で上限75,000円、最大8年間）

③D-Bizについて

- ・開設5か月で315件の相談があった。

- ・創業の相談は 26 件あり、2 件が創業を実現した。
- ・4 月中旬より、毎週火曜日にデザインアドバイザーが相談体制に加わっている。

委員からの意見。

①大東市産業振興基金について

- ・大東市は良いところを知ってもらう力が弱い。他市では市役所や商工会議所などに名産品を展示している。
- ・産業展でふるさと納税の返礼品を展示するなどしてはどうか。
- ・産業展にからめて同時に求人や奨学金の PR をしてはどうか。
- ・新しい事業を始めるのも一つだが、奨学金返還支援補助金のような既存の事業の中で良いものを拡大していくのも一つの選択肢ではないか。
- ・人材不足が一番の悩みである。
- ・求人は自社の努力が一番だが、HP などの PR 方法を教えてあげることも必要である。

②大東市未来人材奨学金返還支援補助金について

- ・大学は誰でも行くことができるような時代になってきた。奨学金が生活費として使われている可能性もある。何でも補助するというのではなく、本当に必要な人に補助する必要がある。
- ・奨学金の返還額の半分を市が補助し、四分の 1 を企業が補助することを考えてほしいということだが、人により賃金に差がでることの不平等感が生まれてしまうのではないか。
- ・資格取得の支援も必要ではないか。奈良県の高校では生徒が資格を取れるよう支援しているところもある。
- ・お金の支援だけでなく、生活環境を整えることも必要である。
- ・奨学金の補助は求人している側からすると武器になると思う。
- ・どれくらいの社員が奨学金を借りているか知らない企業も多いのではないか。
- ・補助金目当てで入社されると、企業としては定着してくれないのではないかという不安がある。
- ・退職金を前払いして充てる方法もあるが、すぐに辞められると困る。
- ・魅力ある企業をつくるということに尽きる。

③D-Biz について

- ・D-Biz に相談することがまとまっていなくても、とにかく行って話すことで考えがまとまるので行ってみるとよいと思う。
- ・他の相談窓口が多いので、D-Biz に一本化してはどうか。
- ・D-Biz を盛り上げるのはあくまでも事業者である。知り合いを誘って輪を広げていく必要がある。

④その他意見

- 生活サポート事業は、日常のちょっとしたことができず困っている高齢者等を地域で支え合うよう取り組んでいる。30分250円か時間貯金ができる。この取り組みを企業にも参画してもらい、市民さんではできないことを解決できないかと考えている。
- 企業のサービスに付加価値をつけ料金を取ることができる仕組みである。
- 地域の困りごとから新しい仕事づくりができる。

4. 次回開催について

9月27日（水）14：00～開催予定。